

令和7年5月12日

生徒総会 挨拶

皆さん、こんにちは。

各学年、新年度が始まって1ヶ月が過ぎましたが、個々が立てた学習や資格取得、部活動での役割など、各学年の目標に向かって順調に進んでいるでしょうか。

今年一年、自らの力で「できること」を増やせるよう、努力の汗をかき、感動の涙で締めくくって欲しいと願っています。

さて私事ですが2ヶ月前の3月13日に校長室へ1本の電話がありました。

電話の主は、私が平成3年に教員生活をここで始めて3年間担任した時の生徒でした。

50歳になる彼は、隼工のインテリア科を卒業後、仕事を頑張って、現在、全国展開しているある企業の部長をしているそうです。昨年度、部下が高校生に対する企業説明会で隼工の資料を持ち帰った時、私が母校に帰ってきているのを知って、懐かしく電話をかけてくれたそうです。

私は、その卒業生らと、同じ時間と空間を共有し、心通わせたその3年間の出会いは、何物にも代え難い貴重な出来事で、30年以上の時を経てもなお、その時と変わらず思い出話をしては談笑したところでした。こんな経験ができることが教職員としての職業の醍醐味であり、そのことを味合わせてくれることに対して感謝しかありません。

下世話な話ではありますが、いくらお金を積まれて役になりきったとしても、心から分かち合うことをできないのが、この様な貴重な「思い出」です。
(無形の「思い出」も、観ることのできない大切なもの)

逆を言えば、今、級友・部員・先生・家族と共に過ごして、お互いが確かにここに、こうして存在したことを認め合い、時を超えて励まし合えることは、お金の換えがたい貴重な存在であると言えるのです。

本日は、皆さんがそんな思い出に残る、「より良い学校生活」を過ごす上で委員会活動の在り方や、要望を話し合う場です。これからも皆さんと一緒になって、「誇れる隼工」にしていきたいと思いますが、そのためにも皆さんが、主体的に取り組むことを期待して、私からの挨拶といたします。